



全校で「ありがとう」の気持ちを伝えた「感謝の会」

今週14日（火）に、日頃から本校の児童が大変お世話になっている防犯パトロール隊の皆様、交通指導員さん、読み聞かせボランティアの「もこもこ」さん、PTA役員の皆様の各代表の方をお招きして、「感謝の会」を行いました。会は、放送室で代表委員の児童が主体となって進め、全校児童は校内放送を通して参加しました。各代表の方々へ、最初に代表児童がお礼の言葉を述べ、続いて手紙と花のアレンジメントの贈呈を行いました。それらを通じて、全校児童から「ありがとう」の気持ちを伝えることができました。ご来校くださった方々は、「子供たちからの感謝の気持ちが大変うれしい」「代表委員の児童がとてもしっかりと会を運営しているのがすばらしい」と率直な思いを述べておられました。

今後も地域やPTAの方々に、本校の児童を温かく見守っていただけると幸いです。



▲「お礼の言葉」を述べる代表児童



▲手紙と花のアレンジメントの贈呈



「気付く力」を育てる

先日、NHKのある番組を見ていたら、かつてヤクルトスワローズなどで活躍された野村克也監督のことが取り上げられていました。野村監督は、自身の選手の指導法などを克明にノートに記録されており、そのいくつかを紹介されていました。その中で、私は「監督は「**気付かせ屋**」」という一言がとても心に響きました。私たち教師も、プロ野球の監督と同様に「指導者」です。私は職員に、「教師の指導で大切なのは、「教える」ことよりも「育てる」こと。指導の割合は、「**教**」 < 「**育**」を心掛けるように」とよく話をします。子供に「教える」場面では、子供はどうしても受け身になり、自分で気付くチャンスを逃してしまいがちになります。しかし、子供が気付くまでじっくりと待ったり、気付くための仕掛けをしたりすれば、子供の「**気付く力**」が伸び、それが子供の主体性を「育てる」ことにつながります。

今朝、一人の低学年の児童が、午前8時近くになっても正門のところで遊んでいました。それに気付いた6年生のAさんは、自らその児童のところに歩み寄り、「教室に行こうね」と優しく声を掛け、教室へ連れて行ってくれました。このAさんの姿からは、「**気付く力**」が育っていること、そして、「**気付**」を基に「**行動する力**」が身に付いていることが実感できました。

本校では、Aさんのような主体的に行動ができる子供がより多くなるように、今後も「**気付く力**」を育てる指導を大切にしていきたいです。

